



水産海洋学会研究発表大会シンポジウム

北日本周辺における水産資源の分布の北上とその対応

日時: 2023年11月10日(金) 10:00~16:30

場所: かでる2.7 4F 大会議室 (会場の定員は150名程度, オンライン併用)

共催: 道総研水産研究本部

コンピーナー・座長: 板谷和彦 (函館水試)、笠井亮秀 (北大院水)、黒田 寛 (水産機構資源研)、山口幹人 (東海大)

参加登録: 下記よりお申し込みください (締切 11月8日(水))

URL: <https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZ0uceysqzIiG9Sla1gOzi1H1zHrgsgRbsqk>



問合せ先: 2023年度水産海洋学会実行委員会 jsfo-sapporo@hro.or.jp

司会: 板谷和彦 (函館水試)

開会挨拶

10:00~10:10

木村伸吾 (一般社団法人水産海洋学会会長)

木村 稔 (道総研水産研究本部)

開催趣旨説明

10:10~10:20

板谷和彦 (函館水試)

座長: 笠井亮秀 (北大院水)

1. 近年の北海道周辺の海洋環境

黒田 寛 (水産機構資源研)・有馬大地 (道中央水試)

10:20~10:50

2. 北海道におけるブリ漁獲の増加: 水温上昇と回遊パターンの変化

富山 嶺 (道中央水試)

10:50~11:15

3. 分布域が北上した資源の有効利用方策と近年の状況

木所英昭 (水産機構資源研)

11:15~11:40

昼休憩

11:40~13:00

座長: 板谷和彦 (函館水試)

4. 北海道周辺の北方系資源の現状 (ホッケ等)

山口浩志 (道中央水試)	13:00～13:25
5. 北海道周辺のスケトウダラ資源の現状 境 磨 (水産機構資源研)	13:25～13:50
休憩	13:50～14:00
座長: 山口幹人 (東海大)	
6. 代謝生理特性からみた岩手産サケの行動生態 北川貴士 (東大院新領域/大気海洋研)	14:00～14:25
7. 水温変化に対応したサケの放流適期 品田晃良 (道さけます内水試)	14:25～14:50
8. コンプ類資源の現状と新たな促成養殖手法による対応 秋野秀樹 (函館水試)	14:50～15:15
9. 北海道における近年の主要魚種 (サケ・ブリ等) の漁獲状況とその変化への対応 江頭 崇 (北海道ぎょれん)	15:15～15:40
休憩	15:40～15:50
10. 総合討論	15:50～16:30
座長: 志田 修 (道栽水試)	
パネラー: 漁業関係, 行政関係, 流通の関係者	

開催趣旨: 北海道周辺海域は、太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、それぞれの海は海峡により接続され、様々な暖流や寒流の変動ならびにそれらに輸送される水塊の影響を受ける。本海域における近年の漁業生産をみると、ブリのように夏季に来遊する魚種の漁獲量が顕著に増加する一方、スケトウダラやホッケといった北方系魚種の漁獲量が減少するなど、地球温暖化による水産資源分布の北上が想像される。その一方で、ニシンのように北方系でありながら漁獲量が増加している水産資源もあり、地球温暖化と水産資源の北上を一括りでは説明できない難しさがある。北海道は日本の北限であり、水産資源の分布変化に合わせた漁場の北上は不可能であることから、水産資源利用の面からも対応策が必要である。例えば、温暖化に伴う環境変動に対して増養殖技術の高度化により水産資源を持続的に利用する取組みや、漁獲量が増加している魚種については、加工や高鮮度流通についての技術開発が進められている。そこで本シンポジウムでは、近年の北日本周辺海域における海洋環境と水産資源変動ならびにこれら変動に対応するための最新の技術開発や研究事例を紹介し、将来も豊かな食卓を支えるためには、何が必要となってくるのか議論したい。